

みあかり



提灯行列（平成31年4月17日）[神宮司庁提供]

目次

- 大嘗祭の次第について
- 教化委員会の総括
- 宣長の遺言書
- 宮美会～神社から地域活性化～
- 神明神社の禊屋祭
- 境楠

教化特集号 第27号

三重県神社庁
庁報編集委員会

大嘗祭の次第について

皇學館大学研究開発推進センター
神道研究所助教

佐野 真人

はじめに

平成三十一年四月三十日に第一二五代の天皇であられた上皇陛下よりの御讓位を受けられ、翌五月一日に天皇陛下が第一二六代の天皇として御踐祚（御即位）になられ、令和元年と改元されました。御讓位による皇位継承は、文化十四年（一八一七）の第一一九代光格天皇の御讓位以来、実に二〇二年ぶりの御事です。一般の皇位継承は、平成二十八年（二〇一六）八月八日の「象徴としてのお務めについて」という上皇陛下（當時は天皇陛下）のおことばにより、平成二十九年（二〇一七）の第一九三通常国会において成立した「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」に基づいて執り行われた

ものです。

今回の皇位継承儀礼は、平成三十一年三月十二日の「賢所に退位及び期日奉告の儀」「皇霊殿神殿に退位及び期日奉告の儀」「神宮神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に勅使発遣の儀」から始まり、その中でも最も重儀たるものは、十月二十二日に挙行される即位礼正殿の儀と、十一月十四日の夕刻から十五日の未明にかけて斎行される大嘗祭です。

大嘗祭とは何か―その起源―

大嘗祭は、天皇が即位の礼の後初めて行う新嘗祭です。新嘗祭は毎年十一月に、その年の新穀を天皇が神に捧げ、天皇自らも食す祭儀ですが、当初は「大嘗祭」とは

この新嘗祭の別名でした。後に即位後初めての新嘗祭を一世一度行われる祭として、大規模に執り行うこととなり、律令ではこれを「踐祚大嘗祭」とよび、通常の大嘗祭（≡新嘗祭）と区別したものです。大嘗祭（≡新嘗祭）の儀式の形が定まったのは、七世紀の皇極天皇の頃と言われていますが、この頃はまだ通例の大嘗祭（≡新嘗祭）と踐祚大嘗祭の区別はありませんでした。通例の大嘗祭とは別に、格別の規模のものが執行されたのは天武天皇の時が初めです。ただし、当時はまだ即位と結びついた一世一度のものではなく、在位中に何度か挙行されていました。律令制が整備されると共に、一世一代の祭儀として「踐祚大嘗祭」と名付けられ、祭の式次第など詳細についても整備されていきます。

斎田の卜定

大嘗祭の最初の関連儀式は、斎田の卜定です。『儀式』踐祚大嘗祭儀の冒頭には、「天皇の即位す年に〔七月以前に

即位す當年に事を行ひ、八月以後には明年に事を行へとは、受讓けて即位すを謂ふ。諒闇に登極すを謂ふに非ず。大臣、勅を奉り、神祇官を召し、密封して、悠紀・主基の国郡を卜定めしめ、奏に画きたまふこと訖れば、即ち其の国に下知せよ」とあり、讓位による即位が七月以前の場合、その年に大嘗祭を行い、八月以後の場合は翌年に大嘗祭が行われることになっています。なお、諒闇登極（先帝の崩御による即位）の場合には、一年間の諒闇期間が明けてから大嘗祭が行われます。そして、悠紀国・主基国となる斎国・斎郡の卜定から大嘗祭関係の諸儀は始まります。

この卜定には、龜甲を用いて行いました。『儀式』の規定によれば、卜定によって決定された悠紀国・主基国の斎田において、大嘗祭の神饌および御酒の料となる米を耕作し、朝廷からは拔穂使が発遣され、九月に収穫されると、平安京郊外の北野斎場に設けられた

悠紀・主基の齋院に、両齋国から
国司に率いられて米などが納めら
れます。この齋院では、精米・醸
造などの準備が行われ、十一月下
卯（卯日が三回ある場合は中卯）
の祭儀当日に、北野齋場から大嘗
宮へ神供の品々が運ばれること
になります。

なお、今次の大嘗祭における悠
紀国・主基国は、令和元年五月十
三日に宮中三殿の神殿前庭におい
て「齋田点定の儀」が齋行され、
悠紀・主基の卜定が行われました。

大嘗祭の諸儀式

大嘗祭の卯日神事に先立ち、十
月の下旬に天皇親ら大内裏を出て、
河原に行幸し御禊を行います。そ
の文献上の確実な初見は、平城天
皇大嘗祭の時です（『日本紀略』
大同二年（八〇七）十月二十八日
条）。しかし、近世の大嘗祭復興
の際には、鴨川への御禊行幸は復
興されず、内裏において御禊が行
われています。

大嘗祭の神事の前に、天皇は廻
立殿に出御されます。その中の

御湯殿において天皇は小忌の御湯
儀を行われ、身を清められてから
御祭服をお召しになられます。そ
の後、悠紀殿に入御され神饌を御
親供になられ、御退出の後、廻立
殿に還御され、再び御湯を召して
御祭服を改められて、主基殿にお
いて同様の御儀を行われます。

大嘗宮の悠紀殿・主基殿には、
神座が奉安されます。この神座は、
内陣中央の所定の場所に八重置
を重ね敷き、坂枕を置き、その上
に御衾をかけて御単を奉安し、
御櫛・御檜扇を入れた打扨篋を置
き、裾の方には御沓を入れた御沓
篋を置きます。その後、神座の下
手左右に繪服（絹）と麤服（麻）
が、案にのせて献ぜられます。こ
の神座奉安によって、神が降臨さ
れたことになり、古来より神座、
正に神の坐す座として、天皇も最
も畏み慎んでこられました。
京都において齋行された大嘗祭
では、中央の神座の東側に東南を
向いて天皇の御座が置かれ（東京
では西側に西南を向いて鋪設され
る）、対面するように短帖の神座も

鋪設されました。この方角は天皇
が伊勢の神宮の方角をお向きになっ
て着御されているといわれ、この御
座において、天皇御親から神饌を
御親供になられます。御飯宮（葛
で製した葛筥）の米御飯（忌火で
蒸して調理）、粟御飯、鮮物宮の
甘塩鯛ほか（熟饌）、干物宮の干
鯛ほか、御菓子宮の干柿などの神
饌を、天皇御親ら竹製の御箸でと
られ、規定の数だけ枚手（櫛の葉
で製する）に盛り、神に供せられる
のです。御親供の後、御拝礼が行
われ、次に御告文を奏されます。
その後、天皇御親ら米御飯・粟御
飯をおとりになり聞食され、つい
で陪膳采女の奉仕によって白酒・
黒酒も聞食されます。

大嘗祭の卯日神事の翌日である
辰日から午日までは、辰日節会・
巳日節会・豊明節会（午日）
が行われます。近代以降は「大饗
の儀」として洋式化されました。

まとめ

皇位継承儀礼は、我が国の本義
にもかかわる、最も重要な儀礼です。

神話の世界で建国された国が現存
しているのは、世界で日本だけです。
そして天照大御神の御子孫と伝え
られる皇室が、神話の世界から現
在まで続いており、その中で重要な
儀礼が皇位継承であると理解する
ことが大切なことです。

大嘗祭は、飛鳥時代からの伝統
を受け継ぎながら、明治以降に新
しい儀式が加わったとしても、そ
の核心部分は、古来連綿と受け継
がれています。天皇のみが行い、
天皇のみが受け継ぐ御親供の御所
作などが秘儀と認識されてきまし
た。残念ながら、昭和の御大礼以
降、天皇の神性を得るための儀
、神と一体となる儀式などの様々
な説が出され、平成の大礼が近づく
時には、妄説が乱立して混乱をき
たす状況になりました。

令和の御代となり、再び皇位継
承儀礼が注目を集める中で、多く
の人々が正しい知識を身につけ、
本年秋季の大嘗祭の齋行まで、一連
の皇位継承儀式がつつがなく執り
行えることを願う次第です。

教化委員会の総括

三重県神社庁教化委員会は、支部より選出された教化委員と正副庁長・理事で編成され、年二回開催している。任期を三年間とし、委員会は全体会において、全国教化会議・教学研究会・神宮大麻都市頒布向上計画研修会・各支部教化実践などの報告、また毎年の教化目標・部会事業を各部会で検討している。

教化委員事業として、このたび執り行われる「御代替り」を迎えるにあたり、教化幟「奉祝天皇陛下御即位」を作成、各神社へ二枚を三月に配布した。また、過疎

化対策委員会を立ち上げ、過疎地域神社の現状視察をし、今後の取り組みへとつなげた。

部会事業の内容は、第一部会の北勢地区（県北部六支部）は、区内九十社分の「北勢地域の特殊神事」のホームページを追加作成した。三月末より閲覧可能。ホームページアドレス
(kyoka.nie-jinjacho.or.jp)

第二部会の中勢・伊賀地区（県中部八支部）では、中勢地区は、月刊「若木」などに同封される教化資料の、有効活用推進目的の「教化資料ファイル」を作成。各

神社へ一冊を配布した。伊賀地区は伊賀地区の各神社において行われている「子供を対象とした教化活動の事例」の冊子を作成。各神社へ一冊を四月末に配布した。

第三部会の南勢・牟婁地区（県南部十支部）は、氏神社への参詣推進の幟「氏神様にお参りしましょう」紫生地地に白抜きとしたものを作成。各神社へ三枚を配布した。

今後の教化委員会は、少子高齢化による過疎化地域の増加や氏子意識の希薄化と氏子数の減少などが進行する状況下で、皇室敬慕の喚起、参宮の促進、神宮大麻暦頒布の促進。また、家庭祭祀の継承を図るとともに、年中行事の振興

や地域の歴史・文化を継承し、青少年教育や鎮守の森の保護育成など、教化は多岐にわたるので、継続して取り組んでいく予定である。



宣長の遺言書

松阪市出身で古事記伝四十四巻を三十五年かけて著した国学者本居宣長のお墓は、二箇所あります。

有名な話なのでご存知の方も多
いと思いますが、改めてご紹介し
たいと思います。一つは、本居宣
長記念館（松坂城址内）からほど
近い樹敬寺（新町）にある本居家
の墓所内。もう一つは、山室山の
妙楽寺（記念館から車で約二十分）
の裏山に、「本居宣長乃奥墓」と



宣長自筆の字で刻まれた墓碑があ
り、亡骸もここに埋葬されていま
す。

これらは、宣長の死の一年前
（寛政十二年七月）に春庭、春村
宛に作成した遺言書によるもので
す。

遺言書では、山室山の奥墓のこ
とについて、墓石の後ろに桜の木
を配置したイメージ図や墓石の裏
面並びに横面には何も記さない事、
墓石頭部の形状や墓碑前の花筒不
要、高さや厚さ等にも言及して事
細かな指示をしています。また、
他所他国の人が訪ねてくればこの
奥墓を紹介するようにと指示して
います。

また、亡骸の身だしなみや身に
着ける衣服、棺の大きさや形、材
料、内部に収めるもの等に関して
も事細かに指示しています。そし
て、棺は、夜中密かに山室妙楽寺

へ太郎兵衛（春村）と門人一、二
名で葬ることとしています。

山室の墓所は、遺言書を書いた
年の九月十七日に本居大平をはじ
め門弟十二、三人を同道して見定
めています。

なお、この奥墓では、毎年十月
の第三日曜日に地元観光協会によ
る墓前祭（斎主は花岡神社の奥出
宮司）が行われています。

一方、樹敬寺の墓地等について
も遺言書で、墓は曾祖父道休の右
隣へ、戒名は自らを「高岳院石上
道啓居士」、妻お勝は「圓明院清
室恵鏡大姉」と並べて刻み、横面
には、それぞれの没年月日、裏に
は「本居春庭建」の文字を入れる
よう指示しています。

一方葬式は樹敬寺で行うが葬儀
の隊列については、図を描いて丁
寧に説明しています。ただ、この
隊列の中心となる乗り物には、亡
骸がないことから「樹敬寺本堂迄
空送」としています。

以上、宣長の遺言書を中心にし

て二つのお墓について述べてきま
した。江戸時代の寺請制度下で遺
言書をしたためた宣長の本意はど
うなのか考えさせられます。

なお、本居宣長記念館は、平成
二十九年三月一日にリニューアル
オープンされています。改めて記
念館で宣長の事績をたどり、樹敬
寺と山室の奥墓をお参りされては
どうでしょう。館では、奥墓への
案内図もいただけます。



『宮美会』の活動から地域活性化

いなべ市大安町南金井に鎮座する八幡神社（遠藤玲宮司）では、神社の氏子で組織する『宮美会』の活動が、毎月第二、第四木曜日に神社社務所で行われています。

平成二十三年に発足したこの『宮美会』の名前の由来は、「お宮さん（八幡神社）へ心清らかに集まる美男・美女の会」の意味から名付けられ、宮美会リーダーの日沖照美さんが福祉の勉強会を通じて新潟県の常設サロン『うちの実家』を見学した際、その運営に非常に感銘を受け、この南金井地区にも誰でも気軽に参加して貰えるサロンを作ろうと、老人会組織とは別に一人暮らしの高齢者を中心に参加を呼びかけ、現在六十五歳から九十一歳まで会員数十八名（女性十五名・男性三名）、スタッフ四名で運営されています。

元々の活動目的は、主に一人暮

らしの高齢者の方に対し、「地域からの孤立や閉じこもりを無くし、一人ぼっちのお年寄りを出さないように」の合言葉を基に、地域ぐるみで支え合い、見守り、その中で新しいコミュニケーション作りをして、会員相互に生きがいを持ってもらう為の地域支援サロンを目



指そうと、日頃接する事の少ない孫やひ孫世代との交流会も頻繁に行われています。

主な宮美会の活動内容としては、毎月の定期サロンでは、四名のスタッフを中心に認知症予防体操や電子紙芝居、歌と楽器演奏（大正琴・ウクレレ・バンジョー）等を行ったり、サロンに参加出来ない方（健康上の理由など）への訪問出前サロン、また地域子供会との交流会や各地小学校への出前授業も行われています。

活動初期には八幡神社の氏子域だけでの活動でしたが、今ではその活動が評判を呼び、市内各地域で出前サロンを開催したり、市外（鈴鹿市、四日市市、津市、伊勢市）・県外（滋賀県）にも活動の範囲は広がっています。そしてこの日頃の活動が認められ平成二十七年七月には「小さな親切運動」三重本部より実行章の表彰を受けるに至りました。

このように氏子の方々から自発



的に活動が始まったこの『宮美会』の取り組みは、昨今各地域で課題となっている高齢化問題の一助となり、今後も神社を中心とした地域活性化の一つのモデルケースになっていくものと、更なる活動の発展が期待されています。

神明神社の^{とうやさい}禊屋祭

志摩市阿児町神明に鎮座する神明神社（小崎亮宮司）では十二月十一日に禊屋祭とよばれる例祭が行われる。この禊屋祭の禊屋とは、その年の四十二歳の大厄を迎える男性が一年間神社奉仕をし、大厄から身を護るといふ古くからの特



殊神事を禊屋と呼んでいる事が由来である。そして神社奉仕に志願した男性を「禊人」と呼び、一年間神社奉仕を務め終えた禊人は「古禊」と呼ばれ、古禊は新しい禊人達の指導に当たるといふ。

禊屋祭では「飯器式」と呼ばれる儀式があり、当日に参列された役員、総代、氏子達に振る舞うコノシロの酢漬けや、紅白なますなどを前日に禊人達が膳に盛り付け、用意する。その用意されたものを「給仕人」と呼ばれる小学生の男子（禊人の子供や、その親戚の子供達が担う）が、役員、総代、氏子の皆様に配膳し召し上がって頂く。この儀式は禊屋祭祭典終了を皆で祝い、禊人達は共に禊屋を受けた者同士の絆を相固める儀式である。役員、総代、氏子の皆様に召し上がって頂いた後、一度配膳した物を配膳所に下げ、禊人達も



頂くために整え、禊人達の前に配膳する。この際、祝の歌として高砂を流し、禊人達は高砂に合わせ用意した椀に御神酒をなみなみと注ぎ、それを飲み干して目度度く飯器式終了となる。

禊屋祭は正月を迎えるにあたり、何事も無く正月を迎え、過ごせるように願う祭典である。年が明け授禊祭（一月十八日）と呼ばれ

る祭典で新しい四十二歳の男性が禊屋としての務めを受けることにより、禊人達は禊屋の務めを終え、古禊となる。この授禊祭でも前述した飯器式を行い、この飯器式の中で禊屋の役目を終え、授かった禊屋という務めをお返しし、新しい禊人達にそれを授けるという意味で、授禊祭で行う飯器式は「禊返還式、授与式」と呼ばれている。

こうして禊屋という行事は代を重ねて次から次へと新しい人達に受け継がれていく。昭和の時代では二十人、三十人も受けたという話があり、それよりも昔はかなりの希望者があり、受けられない人まで出たという話もある。近年では禊屋を受ける数は減少しているが、それでも毎年禊屋を受ける人がいるというのは御深慮であろう。末永くこの伝統ある特殊神事「禊屋」を続けていけるよう総代、氏子共々連携し守っていききたいと宮司は語られた。



境 楠

伊勢市宮川町・中島町



緑のコーナー



境楠は古くから近郊にも知られた楠の大樹で、伝えられるところによれば、いつの頃か北家の支配に属する中島町と榎倉家の支配に属する中川原町（1867、現宮川町）との境界に位置したので「境楠」といわれたものである。

暴れ川とも云われた宮川の堤が切れた時には近辺の田畑、家屋がすべて流され川石で覆われた中、境楠が残りそこを目印に堤、町を再建したと伝わる。

境楠は樹高約10m。胸高周囲8mの老木であったが平成15年老衰枯死した。老樹巨木であったため古くから「くすのきさん」と親しまれ現在でも付近の人々の信仰の対象になっている。

この楠の樹陰下に、二世樹が生育してきている。境楠は別名を「逆楠」とも呼んでいるが、これはクスの若木を逆さまに植えたのが良く成長したので「サカヒクス」の「ヒ」が省略されて生じた俗称と思われる。また、宮川が大水の折に上流より楠樹が逆さに流れ着きそのまま根付いた事から「逆楠」となったとも地元の古老の言い伝えで残っている。



そして、このクスより白蛇が現れたので蛇楠（ジャクス）ともよばれる。その白蛇は京町の八幡祠に遷ったとされている。



このように古くから親しまれ崇められ、信仰の対象になってきたので地元の京町を中心に、付近の町の有志が明治頃「境楠奉賛会」を結成。祠や鳥居を建て、御札を頒布し何病でも祈れば効き目ありとして、今なお毎年元旦と九月の敬老の日に地元の宮司が祭典を斎行し参詣者も多い。

平成22年からの宮川堤の改修で現在の形となった。

教化にともなう原稿・ご意見を募集しています。（下記編集委員まで）

- 教化部長 山本 行恭（鈴 鹿）
- 編集委員長 金山 修（名 賀）
- 委員 秦 昌弘（四日市）
- 〃 西尾 直也（志 摩）
- 〃 多田久美子（津 ）
- 〃 中山 清治（松 阪）
- 〃 遠藤 玲（員 弁）
- 〃 谷口 哲也（伊 勢）
- 〃 原 忠照（神社庁）

御社名欄にご利用下さい。

発行 三重県神社庁 津市鳥居町210-2 ☎059-226-8042 発行日 令和元年6月30日